

# 教師ノート

週課 第一年 第六課 第三週

単元 創世記・1

テーマ 結婚

タイトル ふさわしい助け手

テキスト 創世記 2:18-25

参照箇所 創世記 1:26-31、2:4-7、1テモテ 2:13、1コリント 7:2-4、11:8-12、エペソ 5:22-28

暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)

創世記 2:18

AG 日曜学校教案参照箇所

小上 1 巻 1 題 2 課、小下 2 巻 1 題 2 課、幼 2 巻 10 題 7 課

## □導入

興味を起す質問をしましょう。

例:神さまが初めに造ったのは、男の人だけだったんだよ。男の人は赤ちゃんを産めないね……。女の人はどうやって造られたんだろう？

人がひとりであるのはよくないということ、女の人が男の人の助け手として造られたということ、そして結婚という制度が神によって定められたということ……これらの真理を子どもたちが、幼な子の素直な信仰で受け入れ、歴史的な事実として理解することは、非常に重要なことです。結婚や夫婦関係について語るのはまだ早いと考えないで、真理をストレートに語りましょう。

㊦メッセンジャーは理解しておきましょう。

女性は男性の助け手であるということは、(念のために言うと)男性が偉くて、女性はいつもその従属的存在という意味では決してありません。女性も男性も人間としての価値・尊さは全く同じです。

(伝道者の書4:9~11ふたりはひとりよりもまさっている。ふたりが労苦すれば、良い報いがあるからだ。どちらかが倒れるとき、ひとりがその仲間を起こす。倒れても起こす者のいないひとりぼっちの人はかわいそうだ。また、ふたりがいっしょに寝ると暖かいが、ひとりでは、どうして暖かくなる。) )

㊦創世記2章は、1章のように天地創造の順序を正確に記すことよりも、第6日の人間の創造(1:26-30)に焦点を合わせて詳しく説明する目的で書かれています。ですから1章27節では男と女が同時に創造されたように読めますが、実際には2章で詳しく述べられているプロセスで造られたのです。

## □ポイント1 神さまは、男の人には助け手が必要だと言われたよ

神は、「人がひとりであるのはよくない」と言われました。これは精神衛生上よくないということです。子どもたちにも分かるコトバにすると、人の心は、お互いに助け合わなければ生きてはいけないということです。単に生活面でのアシスタントではなく、男の人の全人格における必要を満たす助け手が必要だったのです。「ふさわしい」は原語で「彼と向かい合い彼と対を成す」というような意味です。別の個性を持った人が互いに相手の足りない点を補うのです。

そこで、神は「助け手を造ろう」と言われたのです。

☆もし、この世界に、ひとりしか人間がいなかったら……。子どもたちといっしょに自由に想像してみると楽しいでしょう。

## □ポイント2 男の人、動物の中にふさわしい助け手がいるか探してみよう

神は、男の人の助け手を見つけるために、まず動物の名前をつけさせました。名前をつけるとき、その動物の特徴をよく観察するからです。それでその中から、男の人が自分にピッタリな助け手を探し出せるようにするためです。また、動物に名前をつけながら、自分にはどんな助け手が必要なのか、アダムは熟考したはずですが、土地のちりから人間を造りだせる神のことを思えば、たくさんの動物に名前をつけさせるのは面倒な作業だったはずですが、神のなさることには、いつも深い意味があるのです。

そして、結局、どんな動物も、助け手としてふさわしいものではないということがわかりました。

☆どんな動物が、ふさわしい助け手の候補になったか、子どもたちといっしょに考えてみると楽しいでしょう。例えば、ゾウは鼻が長くて、遠くのモノを取ってもらう時は助かるけど、一緒に寝たらつぶされてしまうかも・・・、など。

## □ポイント3 神さまは男の人にふさわしい結婚相手として女の人を造ったんだよ

どんな動物も、助け手としてふさわしいものではないということがわかったので、神は、男の人のあばら骨から女の人を造られました。この歴史的な重大事実を、子どもたちが信仰をもって受け入れることができるように、大胆に語りましょう。

☞「骨肉」は血縁関係を表すときに用いられることばです。男の人にとっては、自分の骨から造られ、その人無しには生きられないというかけがえのない存在が与えられたのですから、この上ない親近感があり、感動したはずですが。

☞「父母を離れて」や「一体となる」には深い真理があります。しかし、このアウトラインでは、それらについて詳述しません。子どもたちに理解して欲しいことは、「人の結婚は神との関係においてのみ正しく理解できる」ということです。神の創造の秩序を知らないで、結婚という人間関係を本質的に理解し、実現することは不可能なのです。結婚は人間が定めたものでなく、神の意図によるものだという、重大な事実を強調しましょう。

## □結論 神さまは大切な結婚の意味を定められました

*暗唱聖句を読み上げます*

## □適用（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

例えばメガネの役割は何だろう？ それはメガネを作った人がいちばんよく知ってるね。メガネを作った人は、視力の弱い人の目が良く見えるように助けるために、それを作ったんだよ。男の人の役割も女の人の役割も、それを作った神さまがいちばんよくご存知だね。それには深い意味や目的があるから、人間が勝手に変えてはいけね。メガネで歯を磨こうとしてもうまくいかないように、男も女も、神さまが造ってくださった目的のとおり生きるのが、一番幸せなんだよ。